

滲出性中耳炎について

やまおか耳鼻咽喉科

1. 滲出性中耳炎とは

- 1) 中耳と言う鼓膜の奥の部屋に液体が溜まる病気です。
- 2) 耳管と言う鼻の奥から中耳へ空気を送る管の働きが悪いと起こります。
- 3) アレルギー性鼻炎などで鼻の状態が悪いと、耳管の働きが悪くなります。

2. 滲出性中耳炎の特徴は？

- 1) 赤ちゃんからお年寄りまであらゆる年齢の方に発症します。5～6歳に多いです。
- 2) 痛みはなく、難聴もひどくないことが多いので、本人も周りの人も気づかないことがあります。
- 3) 早く治療すれば、すぐに治りますが、発見や治療開始までに時間がかかってしまった場合、何年もかかって、なかなか治らないこともあります。
- 4) 急性中耳炎の後に起こることもあります。

3. 滲出性中耳炎の治療

- 1) 弱い抗生剤、鼻の薬、消炎剤を続けて内服します。1週間毎で通院し経過を診ます。きちんと内服し、薬が切れないように通院を続けることが大切です。
- 2) 1～3ヶ月の内服治療で、あまり改善しない場合、鼓膜切開術や鼓膜チューブ挿入術を考慮します。
- 3) 小さいお子さんの場合、鼓膜チューブ挿入術は入院の上全身麻酔でおこないます。

4. 滲出性中耳炎を放っておくとどうなるか？

- 1) 真珠腫性中耳炎、癒着性中耳炎、慢性中耳炎など、大きな手術を必要とする中耳炎に発展することがあります。
- 2) 10歳位までの間に、耳の予備力(乳突蜂巣)が発達します。滲出性中耳炎があると、乳突蜂巣が発育しないので、大人になっても中耳炎を繰り返しやすい耳になってしまいます。

<詳しくは、当院のホームページをご覧ください>

滲出性中耳炎について

<http://www7b.biglobe.ne.jp/yamaoka-ent/SOM.pdf>

